

環境報告書
2008



(株)電業社機械製作所



本 社



三島事業所

— 目 次 —

目次／編集方針	1
トップメッセージ	2
会社概要	3
三島事業所の概要	4
事業活動と環境負荷	5
環境マネジメント	6
環境負荷低減への取り組み	8
取り組みの実績	9
環境会計	11
安全衛生	12
地域との交流と社会貢献	13
環境に配慮した新技術と製品	14

【編集方針】.....

この報告書は、当社の2007年度の環境管理活動、生産活動に伴う環境負荷実績などを紹介し、皆様に当社の環境保全に対する取り組みをご理解いただくことを目的に発行いたしました。

【対象期間】.....

2007年度
(2007年4月1日～2008年3月31日)

【対象範囲】.....

株式会社 電業社機械製作所

なお、環境会計、環境パフォーマンスデータ集計範囲等はISO14001の認証を取得している三島事業所のみです。

【参考にしたガイドライン】.....

本報告書の作成にあたっては、環境省「環境報告書ガイドライン(2007年度版)」を参考にしました。

【発行日】.....

2008年12月 (次回発行予定 2009年11月)

【お問い合わせ先】.....

(株)電業社機械製作所 三島事業所 環境管理事務局
TEL 055-975-8228
FAX 055-975-9988
〒411-8560
静岡県三島市三好町3番27号

昨今、地球温暖化問題、食品関連の毒物・偽装問題、米国のサブプライムローン問題を発端とする世界金融危機など、連日のようにマスコミで報道され、国内外において社会・経済環境が深刻化しています。地球温暖化については、京都議定書で定められた第一段階の目標期間である第一約束期間が2008年度からスタートしました。CO₂排出削減目標を達成するためには、国レベルから個人レベルに至るまで、CO₂排出削減のための着実な活動や行動が待たなしで求められています。

当社では2007年12月に第3次中期経営計画を策定し、「社会に貢献していく企業として、緩やかであっても常に成長を続けていくことが必要である。」という方針に沿って各本部が目標を定め、その目標達成に向け取り組んでいます。当社の主力製品はポンプや送風機などの大形製品が多いため、これらの製品の運転には多くの動力エネルギーが使用されます。このような環境側面を有する製品の高効率化を図ることは、CO₂排出削減に対して当社が取り組むべき最重要課題の一つであり、責務であると考えております。製品の高効率化を迅速に進め、実現するため、流体解析技術を駆使した新モデルの開発や製品の最適化設計を推進しています。製品の高効率化を実現することによって環境負荷の低減と省エネ効果の高い製品を国内外に提供でき、それが社会貢献の一つであると確信しております。

また、コンプライアンスの徹底は企業の社会的責任として極めて重要であります。当社は「電業社行動指針」の周知徹底を図るため、コンプライアンス委員会を設置し、法令等の遵守を確実に実践することを推進しています。

この環境報告書は2007年度の環境保全活動の概要をまとめたものです。本報告書をご一読いただき、当社の取り組みにご理解をいただくとともに、皆様方の忌憚のないご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸いです。



代表取締役社長
渡邊昌信

《経営理念》

コアコンセプト

技術創生

電業社は、『物作りの技術を中心とした企業活動』を行い、将来とも発展することを目指します。

【社会貢献】 電業社は、独自の技術を駆使してより良い製品を創り、社会の進歩に寄与します。

【人間中心】 電業社は、株主・社員はもとより、地域や社会・世界の人々のために活動します。

【環境貢献】 電業社は、自然と共存する技術を目指し、地球環境の向上に寄与します。

【人材育成】 電業社は、社員の自己啓発を支援し、自らの役割と価値を創造しうる人材の育成に努めます。

～電業社行動指針(要旨抜粋)～

◆社会ルールの理解と遵守

ビジネス社会のルールの遵守は全てに優先し、違法・脱法行為は絶対に行ってはならない。又、社会主義及び社会的責任の観点から市民社会の秩序や安全に影響を与えるすべての反社会的団体とは一切関係を持たない。

◆ステークホルダーとのありかた

顧客、株主、代理店、取引先地域社会等に代表されるステークホルダーとは、良きパートナーとしての認識に立ち、情報公開に努め公正かつ誠実な信頼関係の構築と維持を図る。

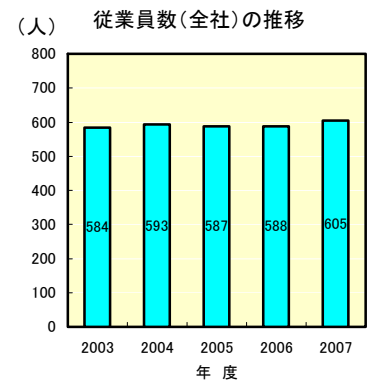
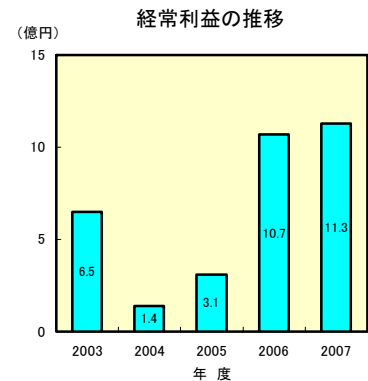
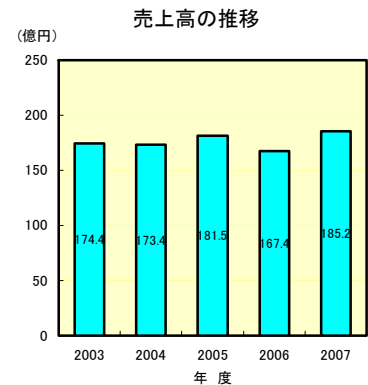
◆環境への取組み

環境を考えた事業活動の展開を根幹とし、よい環境づくりに役立つ技術の研究、開発、生産及び製品提供を行う。生産過程の環境負荷を低減し、自然との調和を図り、健康的な社会環境づくりに積極的に取り組む。

会社概要

電業社は、流体・環境分野の複合技術の創生をめざす「Open up the future～新しい風が未来を切り開く～」をコンセプトに、人と環境にやさしいモノづくりに取り組んでいます。

商号	株式会社 電業社機械製作所 (DMW CORPORATION)
創業	明治43年9月(1910年9月)
本社	〒143-8558 東京都大田区大森北1丁目5番1号 TEL 03-3298-5111 ホームページアドレス http://www.dmw.co.jp
資本金	8億1千万円
主な事業内容	(1) 風水力機械の製造、販売 (2) 廃水処理装置 及び廃棄物処理装置の製造、販売 (3) 配電盤・電気計装制御装置 及び電気通信制御装置の製造、販売
事業所	三島事業所
支店・営業所	北海道支店、東北支店、関東支店、静岡支店、 名古屋支店、大阪支店、中国支店、四国支店、 九州支店、 新潟営業所、横浜営業所、和歌山営業所、 岡山営業所、沖縄営業所
関連会社	電業社工事株式会社 株式会社エコアドバンス



売上高、経常利益、従業員数とも単独

《トピックス2007》

★サウジ NCP プロジェクト向けポンプ

サウジ・シェブロンフィリップ社より、石油化学コンビナートで使用される、大容量の海水取水ポンプ、海水循環ポンプ、冷却水循環ポンプ合計17台を受注しました。NCPプロジェクトにより建設される石油化学コンビナートは、オレフィン、高・低密度ポリエチレン及びポリプロピレン等、各種石油化学製品の生産プラントで構成され、現在工事が進行中です。

当社はウォーリーパーソンズ社より、大容量の立型／横型ポンプ納入実績に基づくポンプ製造技術及び品質を高く評価され採用に至りました。さらに、ポンプが据付けられる水槽の解析(CFD:コンピュータ流れ解析)技術についても高い評価を受けました。

★ペトロ・ラービグ社向け冷却水ポンプ

ペトロ・ラービグ社が総事業費 100 億米ドルを投じて、サウジアラビア紅海沿岸のラービグに計画した世界最大級の石油化学コンビナートに、1時間当たりの送水量が 8,500 m³(口径 1,000 mm)の冷却水ポンプ 30 台を納入しました。

同コンビナートは、原油から燃料や原料等を生産する石油精製プラントと、原料から各種石油化学製品を生産する石油化学プラントで構成されますが、その冷却設備に当社のポンプが活躍しています。



ラービグ石油化学プラントの冷却水ポンプ

三島事業所の概要

三島事業所は昭和15年に霊峰富士を仰ぐ水の都三島市に設立され、大形のポンプ、ファン、ブロワ、バルブ等の風水力機械を中心とした産業機械の設計、製造や新製品の研究開発を行っています。

これらの製品は上下水道、電力、ガス、鉄鋼、セメント、石油精製、石油化学等の公共事業ならびに諸工業、国内、国外の広い分野で活躍しています。

三島事業所は恵まれた環境のもと、伝統ある高度の技術を生かし、お客様のニーズに対応したより良い製品を送り出して、社会に貢献したいと考えております。

三島事業所	〒411-8560 静岡県三島市三好町3番27号
設立	昭和15年9月
敷地面積	111,168 m ²
建屋面積	28,618 m ²
従業員数	424人



本館



事務館

主な製造品目	
ポンプ	渦巻ポンプ 軸流ポンプ 斜流ポンプ チューブラポンプ スクリューポンプ 水中モータポンプ
送風機	ターボファン 翼形ファン ラジアルファン 多翼ファン 軸流ファン ジェットファン ターボブロワ
バルブ	ロートバルブ、 ハウエルバンガーバルブ 逆止弁
広域管理システム	遠方監視システム 運転支援装置 監視用電話通報装置 換気制御版
環境関連機器	回転円板水処理装置 有機性廃棄物処理設備 水中排砂ロボット
その他	除塵機 ゲート設備



歯車減速機搭載型立軸ポンプ
〈ラムダ21〉

「横軸ポンプを始動性の優れた立軸ポンプに交換したい」という声に応じて開発されたのがラムダ21です。横軸ポンプと同じ床式建屋に設置でき、省スペースで低コスト、維持管理の容易さを実現しました。



自吸式両吸込渦巻ポンプ
〈ホキレス〉

真空ポンプや電磁弁など補機を必要としない高性能の自吸式ポンプです。補機が不要なため設置スペースが小さく、施設費の低減も可能です。



高速単段ブロワ

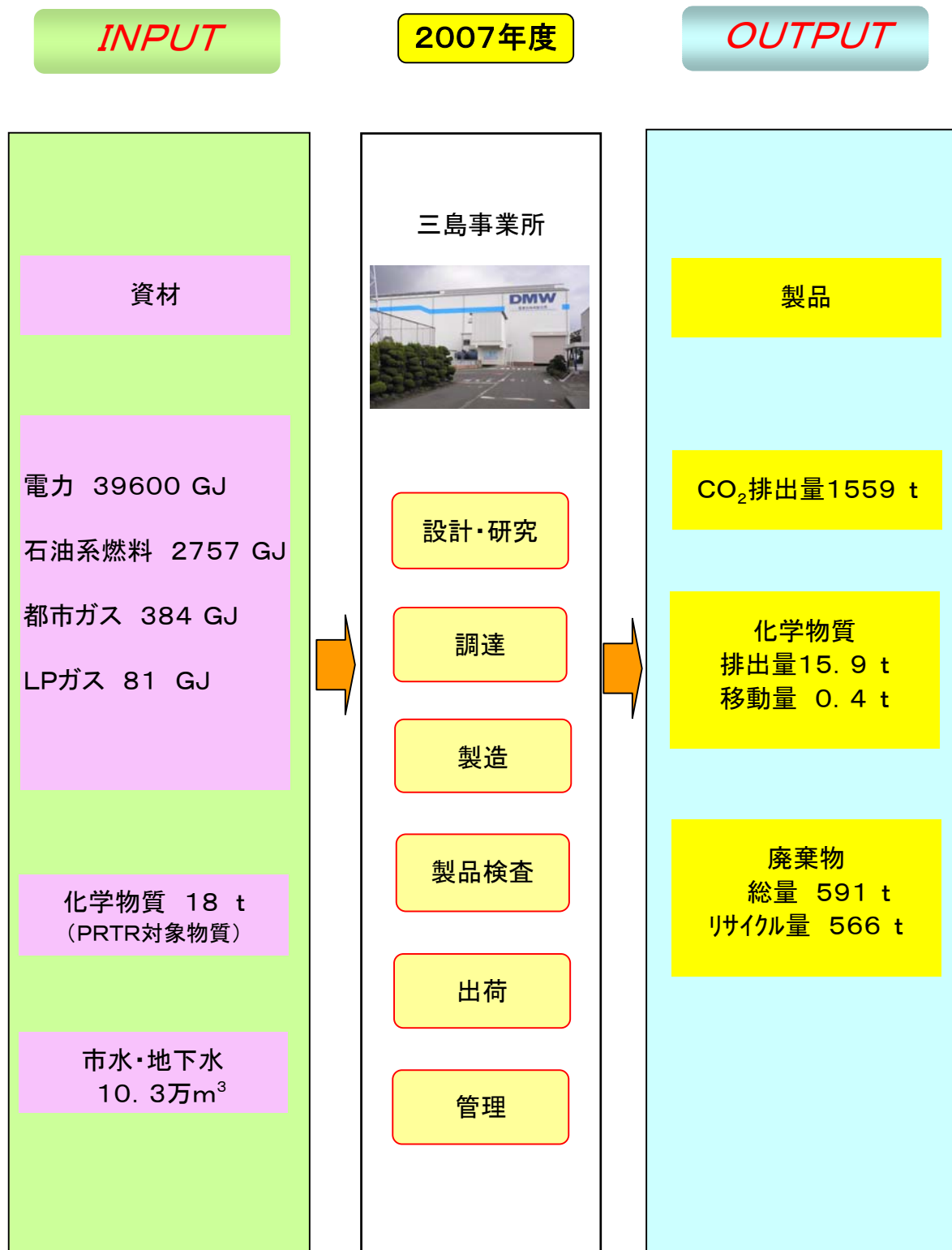
電業社高速単段ブロワは、インペラを増速ギアの高速軸に直接取り付けられた高速回転のブロワです。硫黄回収装置用のエアブロワから硫酸プラント、肥料プラント用などのガスブロワまで数多くの用途に利用できます。



ジェットファン異常検知システム
〈ジェイシグマ〉

正常状態と現在のセンサ出力の差異を検知して、統計的診断手法で異常を判定するトンネル換気用ジェットファンの異常検知システムです。従来検知できなかった支持部材の緩みまで初期段階で検知できます。

有機性廃棄物処理装置、水中排砂ロボットは関連会社の製品です。



※廃棄物の総量とリサイクル量は、金属くず(有価物)を含む

環境マネジメント

環境マネジメント組織体制

環境マネジメントを効果的に実行するため、環境管理統括者を環境マネジメントに関する三島事業所の最高責任者とし、環境管理責任者を実行責任者とする環境マネジメントシステム(EMS)組織体制を確立し、それぞれの役割、責任、権限を定めています。

毎月定期的に環境管理委員会を開催し、環境管理に関する重要事項の審議や法令改正等に関する情報の提供と周知を行っています。また、毎月の環境管理委員会とは別に、5月と10月に環境管理委員会を開催し、事業所の環境目的・目標に関する審議、各部門で取り組んでいる環境マネジメントプログラムの進捗報告、外部監査結果に関する報告等を行っています。

環境管理委員会の下部組織として、エネルギー、廃棄物リサイクル、環境影響、騒音振動に関する諸施策を審議、答申する4つの専門部会を設置し活動を推進しています。

EMS運用のため、事業所全部門を環境側面を考慮して11の活動部門に分け、各部門で活動に取り組んでいます。



環境管理委員会

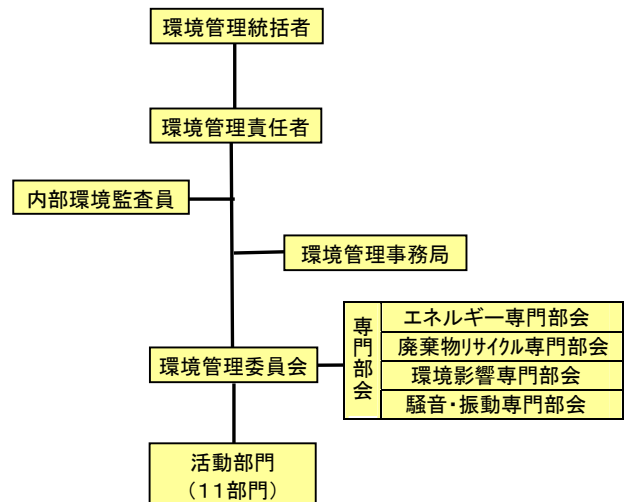
環境監査

環境監査は審査登録機関による外部監査と内部環境監査員による内部監査を年1回実施しています。外部監査では主に、三島事業所のEMSがISO14001規格に適合していること、EMSに基づいた運用がなされていること、発生した不適合に対する是正処置、予防処置が適正になされていることなどが審査されます。2007年度の外部監査では改善要望事項としての指摘が12件ありましたが、全て対応処置を完了しています。

内部環境監査では、環境目標の達成状況、手順に従った運用管理の状況、法的要求事項の順守状況などを監査し、監査結果を環境管理統括者に報告し、EMSの継続的改善に繋がっています。

《環境方針》	
1.	地球資源の有限性を認識し、生産活動の効率を高め、省エネルギー、省資源に取り組む。又、循環型社会の構築を目指して、5R(REUSE、REPAIR、REDUCE、RECYCLE、REFUSE)を推進する。
2.	環境保全に関する法令、条例及び事業所が同意したその他の要求事項等を遵守し、技術的、経済的に可能な範囲で自主管理基準を制定し、一層の環境保全に取り組む。
3.	環境目的と目標を定め、定期的に見直しを行い、環境の継続的な改善を図ると共に、汚染の予防に努める。
4.	社員教育、社内広報活動等を実施し、環境方針の理解と環境に関する意識の向上を図り、全員参加で環境保全活動に取り組む。
5.	環境方針を一般に公開すると共に、関係諸官庁及び住民とのコミュニケーションを図り、地域社会との共生に努める。

《環境マネジメント組織体制図》



内部監査

環境教育・啓蒙

三島事業所の全従業員と構内業者の他、下請工事業者や外注業者を対象に環境一般教育(自覚教育)を実施しています。環境一般教育は地球温暖化や廃棄物、省エネ等の環境一般や三島事業所のEMS、環境法規等の内容を含んでいます。また、毎年、全従業員と構内業者全員に環境管理手帳を配付して、環境方針とEMS組織体制を周知するとともに、各個人が手帳に「私の役割」を記入し、それを実践することで、環境問題に対する意識の向上を図っています。

著しい環境影響の原因となる可能性をもつ作業に従事する作業員には、必要な力量を付与する教育を実施し、法規制に則った運用管理の実行や環境に大きな影響を与えるような作業ミス等の撲滅を図っています。

また、EMSをより有効なものにするため、内部監査員教育を実施し、監査員の力量向上に努めています。その他、環境保全や安全衛生に関する管理能力の向上を図るため、公害防止管理者や危険物取扱作業員等の公的資格の取得を奨励しています。



中途入社社員環境教育



取引業者環境教育

【環境教育】

分類	環境教育名
環境一般 自覚	新入社員環境教育
	環境月間特別講習
	環境月間伝達教育
	下請工事業者環境教育
	外注業者環境教育
	製造部組長環境教育
	月例環境教育
力量	指定作業従事者教育訓練
	内部監査員教育
	廃棄物委託処理業務管理者教育


【公的資格保有者数】

資格	人員(人)
環境計量士	1
作業環境測定士	1
公害防止管理者(大気、水質、騒音、振動)	16
危険物取扱者(乙種2類、乙種4類、丙種)	78
特別管理産業廃棄物管理責任者	3
高圧ガス製造保安責任者	1
エックス線作業主任者	2
有機溶剤作業主任者	67
特定化学物質等作業主任者	2
石綿作業主任者	1
毒物劇物取扱責任者	1

環境負荷低減への取り組み

三島事業所では、事業活動、製品、サービスの環境負荷を低減するため、環境方針に基づき各部門がそれぞれ環境目的・目標を設定し、目標達成を目指して活動に取り組んでいます。また、環境目的・目標とは別に、日常管理としての環境負荷の低減活動にも取り組んでいます。これらの活動によって、これまで電力、燃料の節減による省エネ、廃棄物の削減及び分別と有効利用の促進、ポンプや送風機等の製品の小型化、高効率化等、多くの成果が得られています。

～ 2007年度取り組み・実績事例 ～

環境目的・目標	取り組みの内容・実績
屋外水槽の藻の発生によるpH上昇防止 (目標達成期限2005年度)	<p>藻の発生をなくし、pHの上昇を防止するため、屋外の大型試験水槽に遮光設備(防音対策も兼ねる)を設置しました。</p> <p>遮光設備の設置により水槽水のpH上昇がなくなり、効果が確認されました。2年遅れましたが、目標を達成することができました。</p> 
照明器具の省エネ (目標達成期限2008年度)	<p>①工場天井灯の一部を高効率の照明灯に交換したことによって、21400kWh/年の電力削減ができました。今後も順次高効率の照明灯に交換することで、省エネ20%達成を目指します。</p> <p>②建屋の耐震補強工事に併せ、照明器具の省エネを図りました。機器の高効率化、点滅スイッチの細分化、人感センサーの採用、事務所の2Fへの集合化等により点灯数が大幅に減り、合計28000kWh/年の電力削減ができました。</p>
焼却ごみの50%削減 (目標達成期限2006年度)	<p>焼却ごみを固形燃料(RPF)の原料に利用することで、焼却ごみの50%削減に取り組みました。1年遅れましたが焼却ごみが50%削減され、目標を達成することができました。</p>
変圧器損失電力の62%低減	<p>最新の省エネタイプの変圧器を導入することで損失電力の低減を図ります。2007年度は3台の変圧器を省エネタイプに更新し、18000kWh/年の損失電力を削減することができました。次年度以降も継続して取り組みます。</p>
高Nsファンの効率改善	<p>高Nsファンの2%効率向上を目標に開発を継続中です。</p>

◆ 騒音の低減対策

三島事業所では騒音の発生を著しい環境側面として深く認識し、騒音の低減に努めています。これまで実施した騒音低減のための設備改善として、大容量送風機の試運転時の騒音を低減するため、2005年3月に送風機の回転数を下げて運転ができるように、高圧インバータ設備を導入しました。これに続き、2007年度は工場建屋壁の二重化を行うとともに工場建屋間の一部に防音壁を設置しました。事業所近隣地域への騒音による環境影響を低減すべく、継続して取り組みを進めています。



二重化した工場建屋壁

◆ 苦情の発生状況

2007年度は騒音に関する苦情が1件ありました。工場建屋の耐震補強工事で発生した工事騒音に対するもので、近隣の皆様に対する事前説明が不足していたことが原因でした。事前説明の徹底を図り、近隣の皆様の理解が得られるよう改善措置を講じました。



建屋間の防音壁

取り組みの実績

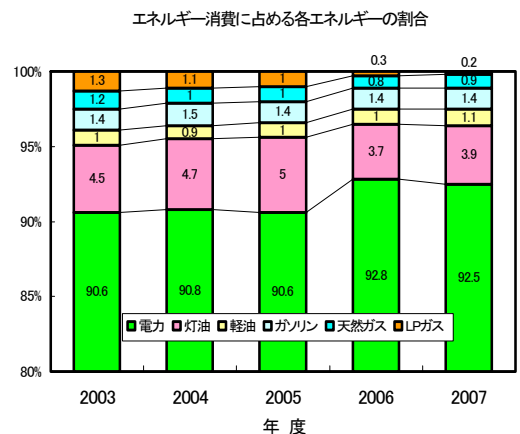
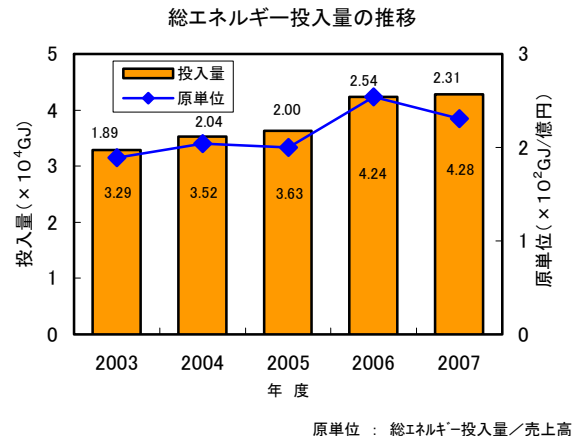
エネルギー投入量

三島事業所の2007年度の総エネルギー投入量は前年度より1%増加しましたが、原単位では9%減少しました。三島事業所の総エネルギー投入量の90%以上を電力が占めています。製造設備の稼働、製品の試運転など生産に係わるエネルギーのほとんど全てが電力で賄われています。

2007年度は、電力消費の削減対策として、事業所内に設置されている変圧器の損失電力を低減するため、一部を高効率型の変圧器に交換し、また事務所と工場の照明器具を省エネ型の照明器具に交換するなどの設備改善を実施しました。

当社の製品は、ポンプや送風機などの大型製品が多いため、一回の運転で大きな電力が消費されるという側面を有しています。そのため、製品の効率を少しでも向上させることが製品の使用段階における大きな省エネの実現に繋がることを強く認識し、ポンプや送風機等製品の性能改善に積極的に取り組んでいます。

(注1) 総エネルギー投入量は三島事業所の事業活動に伴うエネルギー使用量を基に算出しました。2007年度は電力の発熱量換算係数を9.97MJ/Kwhとして算出しました。
 (注2) エネルギー投入量の見直しを行い、2006年度以前の数値について修正を行いました。環境報告書2005、2006、2007に記載した原単位の単位に誤りがありましたので、訂正しました。

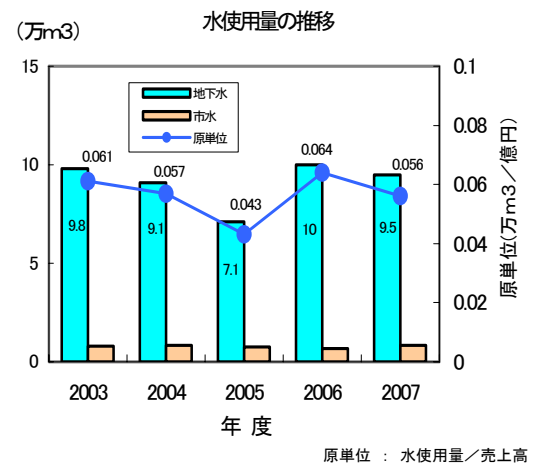


水資源

三島事業所では地下水と市水を使用していますが、使用量の90%以上が地下水です。汲み上げた地下水の大部分は大形試験水槽に供給され、主要製品であるポンプの性能試験を行うための水に使用されています。

地下水の使用量削減対策として、大形試験水槽の水の入れ替え頻度を必要最小限にすることで、むだに地下水を使用しないよう努めています。また、2007年度に屋外大形水槽の上に遮光設備を設置したことにより、藻の発生による水の汚れが防止され、更なる削減効果が期待されます。

2007年度の地下水使用量は9.5万m³で、前年度より5%削減されました。

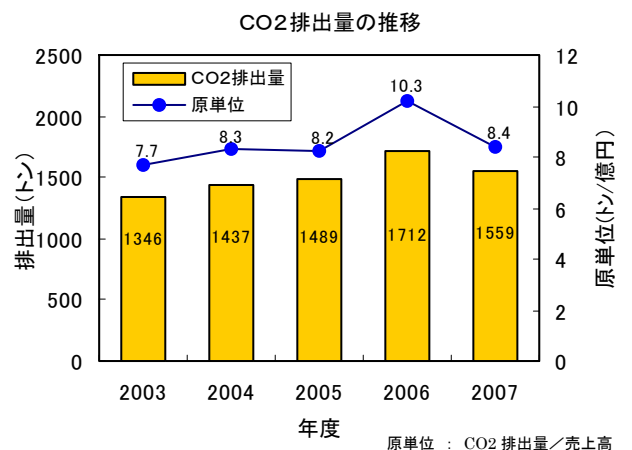


CO₂排出量

2007年度は前年度よりCO₂排出量が9%、原単位では18%減少しましたが、2003年度以降のCO₂排出量の推移は増加傾向にあります。

三島事業所は使用エネルギー源の90%以上が電力であり、電力使用量の削減がCO₂排出量の削減に最も効果的であることから、事業活動における電力削減に重点を置いた取り組みを進めています。またこれと並行して、製品の効率向上を図り、運転時の電力使用量を削減することで製品のCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

(注1) CO₂排出量は三島事業所の事業活動に伴うエネルギー使用量を基に算出しました。



取り組みの実績

廃棄物

三島事業所の2007年度の廃棄物総排出量は591トンで、前年度より17%増加しましたが、リサイクル廃棄物が増加したことによるものです。リサイクル廃棄物の排出量は566トンで前年度より18%増加し、リサイクル率は95.8%でした。主なリサイクル廃棄物は、金属くず、木くず、紙くず、廃プラスチックなどですが、年々増加傾向にあり、近年とくに金属くずと木くずが増加しています。木くずの大部分は購入品の梱包材、廃パレット、廃木型などです。

- (注1) 金属くずは現在有価物として売却していますが、過去のデータと連続性をもたせるため、ここでは廃棄物に含めて集計しています。
 (注2) 金属くず、廃プラスチック、廃木材の排出量集計方法の見直しを行い、昨年度までのデータを修正しました。

化学物質

三島事業所で使用される指定化学物質で量的にPRTRの報告対象となるものは、製品の塗装や部品の洗浄などで使用する塗料や有機溶剤のシンナーなどに含まれるトルエン、キシレン、エチルベンゼンです。

2007年度の指定化学物質の大気への排出量は、上記3物質にスチレン、ジクロロメタンを加えた合計で15.9トンで、前年度より若干増加しました。

VOC排出抑制対策として、シンナー洗浄工程の一部を高圧温水による洗浄に切り替えることやスプレーガンのタイプを塗装物に応じて適宜選択して塗着効率を向上させることでVOCの排出削減を図っています。

- (注1) PRTR：化学物質排出把握管理促進法
 (注2) VOC：揮発性有機化合物

排水

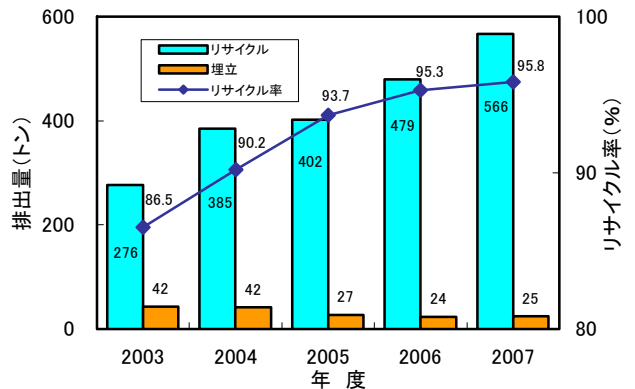
三島事業所から下水道及び公共用水域に排出される排水を管理しています。公共用水域に排出される排水については、施設の日常点検とpHの24時間連続測定及び毎月の定期水質検査を実施し、管理しています。また下水については、毎月定期的に水質検査を実施しています。

公共用水域への排水 (2007.4~2008.3)

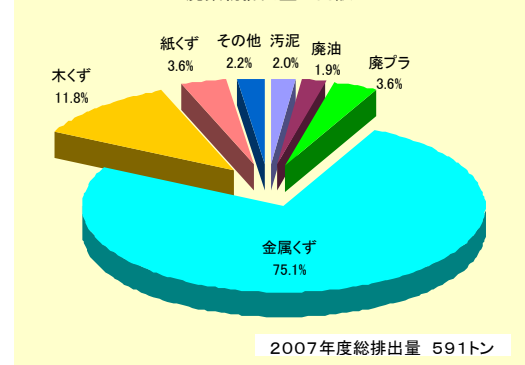
項目	基準値	実績	平均
pH	5.8~8.6	6.2~8.1	7.6
SS	150	ND~27	7
BOD	120	ND~6	1
油分	5	ND	2未満
銅	3	ND~0.03	0.01未満
亜鉛	2	0.04~1.85	0.39
全クロム	2	ND	0.02未満
溶解性鉄	10	0.04~0.17	0.10
溶解性マンガン	10	ND~1.33	0.02未満
ニッケル	0.1	ND~0.02	0.02未満

単位：pH以外はmg/l ND：定量下限値以下

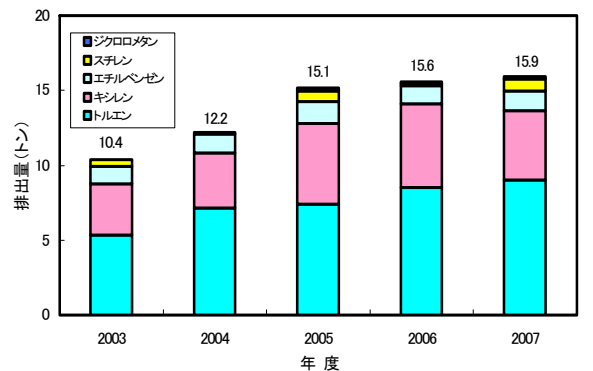
廃棄物排出量



廃棄物排出量の内訳

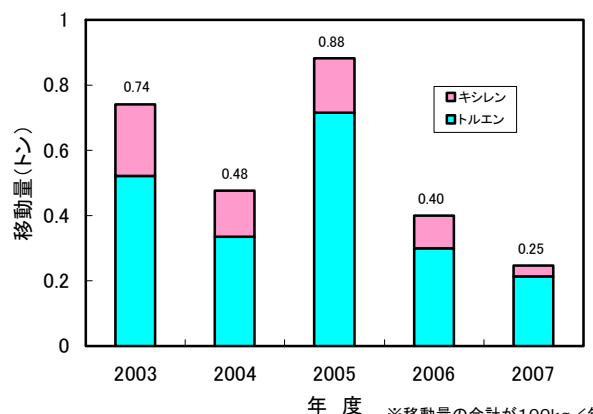


指定化学物質の大気への排出量



※排出量の合計が100kg/年以上の指定化学物質を記載

指定化学物質移動量



※移動量の合計が100kg/年以上の指定化学物質を記載

環境会計

三島事業所における環境保全への取り組みを環境経営に反映し、環境保全活動をより効果的に推進するため環境会計を導入しています。環境会計は環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参考にしました。

対象期間：2007年4月1日～2008年3月31日

集計範囲：(株)電業社機械製作所 三島事業所

2007年度の環境保全コストは、騒音低減、水質保全、消費電力節減のための設備投資を行ったため前年度より増加しました。また費用額も前年度より増加しましたが、研究開発コストの増加によるものです。

環境保全対策に伴う経済効果については、焼却ごみの一部リサイクル化による焼却ごみ削減により108万円及び設備改善による省エネにより18万円の実質経済効果が得られました。

◆ 環境保全コスト

単位：万円

分類		2007年度の実施内容	投資額	費用額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	工場建屋壁の二重化、防音壁の設置、屋外水槽の遮光設備設置、水質測定など	6,844	892
	地球環境保全コスト	変圧器の更新	184	185
	資源循環コスト	廃棄物処理など	0	777
管理活動コスト		EMS運用、環境教育、環境負荷監視	0	571
研究開発コスト		ポンプ・ブロワの効率向上、軸受、水力発電装置等に関する環境関連の研究開発など	0	3,568
社会活動コスト		環境保全団体への寄付、支援	0	10
環境損傷対応コスト		—	0	0
合計		—	7,028	6,003

※1 費用額は減価償却費を含みます。

※2 上・下流コストは算出していません。

◆ 環境保全対策に伴う経済効果

単位：万円

項目	経済効果
高効率照明灯の採用、変圧器の更新等による省エネに伴う節減経費	18
焼却ごみの削減に伴う廃棄物処理の節減経費	108
有価物の売却による収益	1580

※1 省エネに伴う節減経費は、電力使用量の削減量を基に実質経済効果を算出しました。

※2 廃棄物処理の節減経費は、削減対策実施前の実績費用を基に実質経済効果を算出しました。

※3 有価物の売却による収益は、金属くずの売却によるものです。

安全衛生

◆安全管理

三島事業所では“ゼロ災・ノーヒヤリ”を目指し、安全管理活動を推進しています。その一環として、過去の災害・ヒヤリの統計結果を分析し、統計上災害・ヒヤリが多く発生する時間帯に、管理者による臨時の安全パトロールを行い、安全に対する意識の高揚を図っています。

毎月開催する安全衛生管理委員会では、職場で発生した災害やヒヤリについて、その発生原因とそれに対する再発防止対策が報告され、他職場で同様な災害が発生しないよう水平展開を図っています。

全国安全週間には安全教育として講演の他、玉掛実技指導、救護セミナーなどを実施しています。

また、ロールプレスのなどの実際の加工機械を使用し、視覚と聴覚により労働災害の恐ろしさや安全の大切さを実感してもらった「危険体感教育」を実施しています。

三島事業所安全衛生活動の基本方針
*《KY の実践と指差呼称の定着で安全意識の高揚と
 目指そう「災害ゼロ」から「危険ゼロ」》*

◆衛生管理

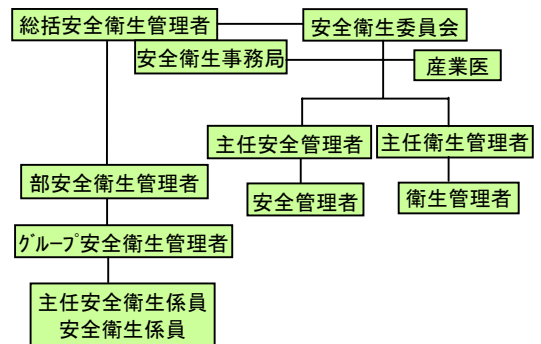
全国衛生週間には医師や看護師を講師に招き、健康講演や健康・衛生相談などの行事を中心に、従業員に対する健康管理や衛生管理を指導しています。各個人に合った生活習慣病予防のための基本プログラムの実践指導や食生活の指導など、常日頃からの健康管理に重点をおいた活動をしています。

◆防災管理

阪神・淡路大震災、中越地震など大地震が発生している中、近々発生が予想されている東海地震への対応内容を記載した「サバイバルカード」を従業員全員に配布し、常日頃から各人の活動内容を把握しておくことやいざという時の備えを十分に行っておくことなどを啓蒙しました。

また、10月1日から、気象庁の「緊急地震速報」がスタートしたことに伴い、東海地震が発生した際の身の安全を確保するための訓練として、「地震まであと30秒、その時あなたはどおする」訓練を実施しています。

安全衛生管理組織



安全パトロール



危険体感教育



健康講演

<p>サバイバルカード</p>		<p>地震発生時初期動作 グラツときたら大声で呼びかける <屋内にいるとき></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.机の下に入る 設備から離れる 2.揺れがおさまったら火を消す 3.ドアを開けて出口を確保する 4.外に飛び出さないこと 5.2階以上は安全だから動かない
-----------------	--	--

地域との交流と社会貢献

《環境美化活動》

三島市内の河川に堆積した泥やごみを除去する河川清掃や河川堤防、市内せせらぎルートのごみ拾い清掃など、毎年行われる河川や町の環境美化活動に積極的に参加しています。

また、毎月定期的に行う特別安全パトロールでは、歩道や道端などに落ちているごみを拾い、三島事業所周辺の環境美化に努めています。



大場川堤防の清掃活動



せせらぎルートの清掃活動

年度	参加人数
2003	22 人
2004	34 人
2005	33 人
2006	32 人
2007	52 人

《夏祭り》

第22回電業社夏祭りが8月10日に開催されました。天候にも恵まれ、子供会によるしゃぎりの共演、いろいろな模擬店の出店、お楽しみ大抽選会などが行われ、大変盛り上がりました。夏祭りは、従業員やその家族、近隣住民の皆様の楽しい交流の場となっています。



桜川の清掃活動



《社会貢献》

◆ 地震や風水害等による被災地への義援や近隣地域への社会福祉のため、平成17年9月に「DMW社会貢献基金運営委員会」を発足し、社会貢献活動を推進しています。

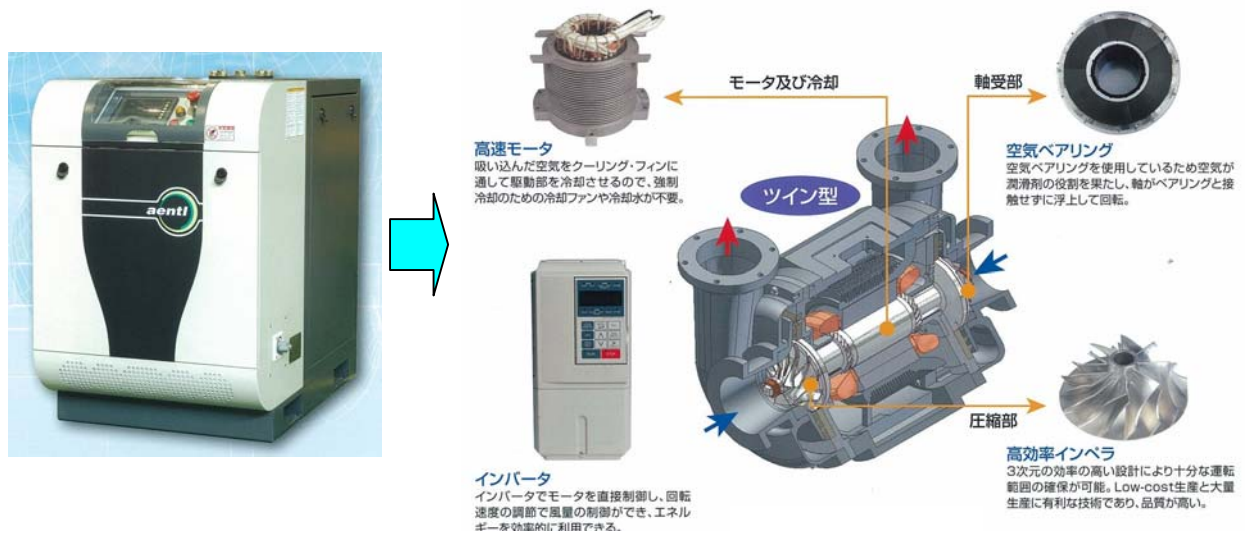
平成19年度は社内基金から、新潟県中越沖地震の被災者へ義援金として20万円、また地域福祉のため三島社会福祉協議会へ20万円を寄付しました。

◆ 三島事業所近隣の学校3校に学生新聞を提供する活動を始めました。現在小中高で取り入れられている「総合的学習の時間」に活用しやすい内容になっており、教科書とは違う広範囲な情報源として活用されています。



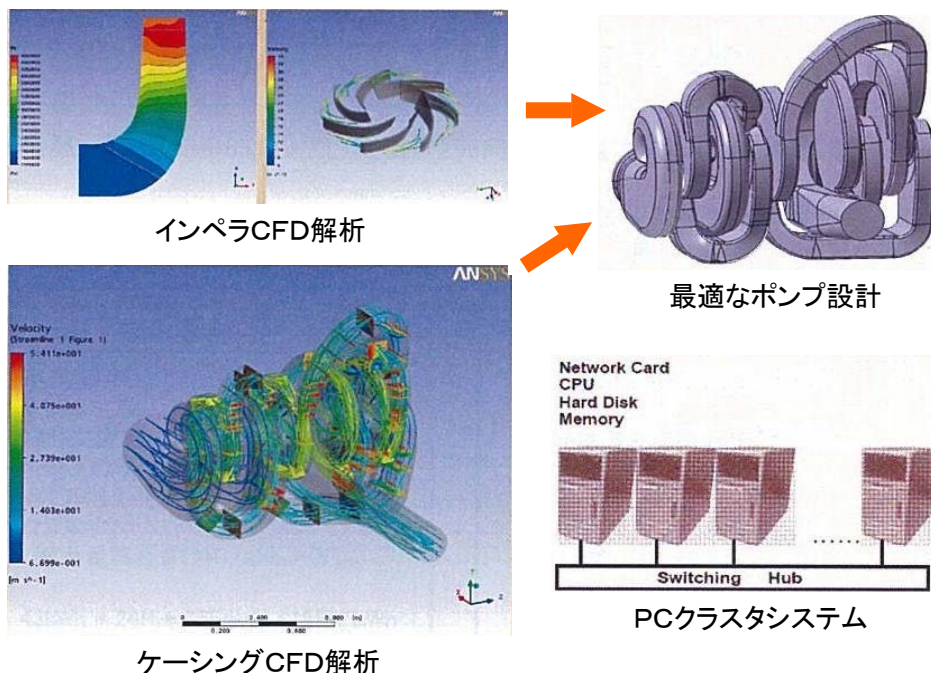
◆ ECO ターボ

ECOターボは3次元高効率インペラと空気ベアリングを採用し、インバータによる回転速度制御を行うことにより、省エネ、低騒音、低振動、オイルフリーを実現した新しいタイプの高効率ブロワです。従来のルーツブロワに対するECOターボの省エネ効果をGT50の場合で試算すると、節減電力消費量105000kWh／年、CO₂ 削減量34トン／年という結果が得られています。



◆ 高圧水平2つ割横軸多段ポンプ

高圧水平2つ割横軸多段ポンプは、40年以上の製作実績で培った流体設計技術のノウハウと最新解析手法を駆使して完成させた世界最高水準の高効率ポンプです。ポンプ効率85%を実現したことで、例えば1500kWクラスの従来型より電力使用量が38万kWh／年節減できます。これはCO₂ 排出量128トン／年の削減に相当します。





Open up the future
～新しい風が未来を切り開く～

DMWC CORPORATION